

## 国際化学肥料ニュース（2025年3月）

### 肥料業界の2025年3月動態

\* 2月最終週（2月24～3月2日）の尿素国際相場は弱気が現れた。西半球では、アメリカと南米市場が不振で、FOB Nola 価格が380ドル／トン、大粒尿素のCFR ブラジル価格が420～425ドル／トンに前週に続いて小幅に下がった。Incofe社の行った中南米向けの大粒尿素国際入札では最低応札価格がCFR430ドル／トンに下がった。ナイジニアDangote社がFOB415ドル／トンで2件計3万トン尿素を販売した。エジプト産尿素は全く取引がなかった。

東半球では、インドネシアKaltim社は大粒尿素の販売入札を取りやめた。その理由は最高応札価格がFOB 410ドル／トンで、期待値に達していない。イランPardis社は久しぶりにFOB 385.30ドル／トンで3万トン尿素を販売した。中東産尿素は問合せがあつたものの契約に至らなかったので、FOB価格が小幅に下がった。

\* ポーランドのGrupa Azoty社はEUの天然ガス価格の高騰とエネルギー転換政策により肥料原料用のアンモニアコストを抑えるため、所有するMijanka港に北アフリカ産アンモニアの荷下ろしを完了したことを発表した。これはポーランドが初めて北アフリカからアンモニアを輸入して、肥料生産コストを下げるだけでなく、港湾インフラを活用してEU向けのアンモニア輸入で新たな事業分野の機会を創出する計画の一環でもあると述べた。

\* 3月6日、中国窒素肥料工業協会は杭州市に開催された会議に於いて、尿素の適切な輸出は中国の窒素肥料産業、とりわけ尿素産業の健全な発展に必要であることを指摘した。

中国2024年末現在の尿素生産能力が前年同期より196万トン増の6919万トン、実生産量が6.9%増の6723.7万吨。2025年にさらに新規生産能力660万トン増加し、そのうち3カ所の計190万トンが上半期に稼働し始まる。2025年の窒素肥料生産量（N換算）4970万トン、尿素実生産量が7100万トンに達する可能性があると予測される。

しかし、需要面において、中国政府農業農村省の予測では2025年窒素肥料需要量（N換算）約2599.8万トン、2024年より若干増える程度で、工業分野の窒素需要量（N換算）約1130万トン、そのうち尿素需要量2200万トン。それを元に計算すれば、2025年に約500～800万トンの尿素余剰量が発生する。余剰量の捌き口としての輸

出に於いて、中国政府が厳しい輸出規制を敷いて、2024年の窒素肥料輸出量（N換算）が16.7%減、特に尿素輸出量が93.8%減の26.3万トンしかなかった。

中国窒素肥料工業協会は政府に対して、国内需要を満たし、国内価格の安定化を維持するうえに尿素を適時適量に輸出することが窒素肥料業界の健全な発展に必要なことを要請する。

\* 3月第1週（3～9日）の尿素国際相場は2週連続下落している。東半球では、インドの新しい尿素国際入札が発表されず、中東産と東南アジア産尿素が軒並みに下がった。カタールのqatarenenergy社は販売入札で4月輸出の尿素をFOB415ドル／トンで契約したが、インドネシアのKaltim社は最高入札価格FOB390ドル／トンを受け、3月第2週に開札された尿素販売入札を取り消した。イランは天然ガス不足が解消して、3月下旬から尿素生産を正常に戻す予定である。

西半球では、エチオピアのEABC社は尿素国際入札の応札価格が高すぎる理由で30万トンの購入をキャンセルした。ナイジェリアDangote社はまだ3月生産分に余裕があり、買手を探している。エジプト産大粒尿素のFOB価格が435～440ドル／トンに下がった。FOBアメリカNola価格が382～395ドル／トン、大粒尿素のCFRブラジル価格が410～415ドル／トンに下落した。

\* 中国税関の速報によれば、2025年1月2月の中国化学肥料輸出量が31%増の224万トン、その内訳は尿素2,600トン、硫安121万トン、DAP2.4万トン、MAP2万トン。2025年2月の中国化学肥料輸出量が88.4%増の243万トン、その内訳は尿素1,400トン、硫安136万トン、DAP4.2万トン、MAP1.2万トン。1～2月の尿素輸出が厳しく規制されて、79.9%減った代わりに、硫安の輸出量が39.2%増えた。DAPとMAPの輸出量も40～60%以上減少された。

一方、2025年1月の中国化学肥料輸入量が23.4%減の128万トン、その内訳は塩化加里119万トン、NPK化成肥料9万トン。2025年2月の中国化学肥料輸入量が25.8%増の122万トン、その内訳は塩化加里112万トン、NPK化成肥料8万トン。

\* 3月第2週（10～16日）の尿素国際相場は3週連続下落した。主な理由は最大需要家のインドが尿素国際入札を行わないと、中東などの在庫がだぶつき、低迷雰囲気がまん延している。東半球では中東産大粒尿素のFOB価格が390～400ドル／トンに下落して、2月中旬より40ドル以上も安くなった。マレーシアとインドネシア産大粒尿素のFOB価格も400ドル／トン台に下がった。イランの尿素工場がほぼ正常稼働となり、4月から平年通りの数量を輸出することが可能となる。

西半球ではエジプト産大粒尿素の FOB 価格が 410 ドル／トン台に下落して、バルト海の小粒尿素 FOB 価格が 360 ドル／トン以下、大粒尿素も 360 ドル／トン台に下がった。南米の需要期が過ぎて、大粒尿素の CFR ブラジル価格が 390～405 ドル／トン、アメリカ尿素の FOB Nola が 380～385 ドル／トンに下がった。

\* インドネシア国営 Pupuk Indonesia 社は 5 月納品の 2 件塩化加里国際入札を行った。開札の結果、2 万トン普通塩化加里の応札価格が CFR335～360 ドル／トン、8,000 トン大粒塩化加里の応札価格が CFR355～435 ドル／トンである。最低応札価格が現在の CFR 東南アジアのスポット価格（普通塩化加里 315～330 ドル／トン、大粒塩化加里 335～345 ドル／トン）より高くなっている。

\* 3 月第 3 週（17～23 日）の尿素国際相場は噂されているインドの尿素国際入札がなく、引き続き不振で、主要輸出国の FOB 価格が前週より 20 ドル／トンも下落した。

東半球では中東産大粒尿素の FOB 価格が 375～385 ドル／トンに下落したが、買手が全く現れず、インドネシア産大粒尿素の FOB 価格も 375～380 ドル／トンまで下がった。なお、インドネシア Kaltim 社の大粒尿素販売入札は 3 月 28 日に締め切りと開札の予定である。

西半球では、EU の需要期が過ぎたせいで、エジプト産大粒尿素の FOB 価格が 380 ドル／トン台になって、4 か月ぶりに 400 ドルを下回った。ナイジェリア Dangote 社は 3 月 17 日に大粒尿素販売入札を行い、3 月末～4 月上旬製品の販売先を探している。南米では大粒尿素の CFR ブラジル価格が 365～375 ドル／トン、アメリカの FOB Nola 価格も 365～384 ドル／トンに下落した。

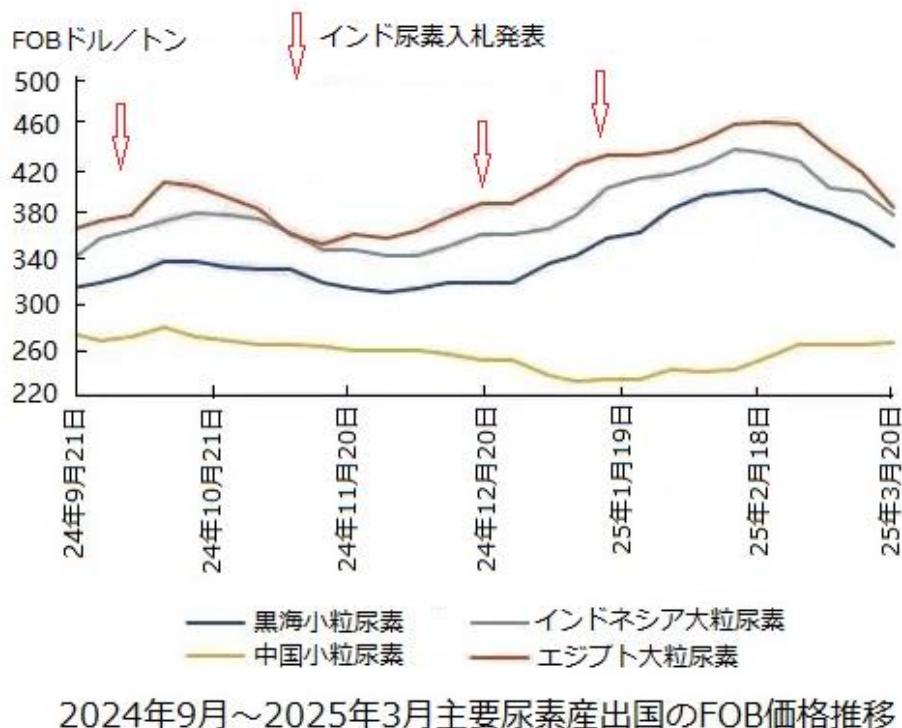
\* 3 月 26 日インド IPL 社が尿素国際入札を発表した。予定される購買数量は西海岸 80 万トン、東海岸 70 万トンの計 150 万トン。4 月 8 日締切りと開札、6 月 12 日まで船積みという条件である。これはインド今年の 2 回目に尿素国際入札である。

\* 4 月のアンモニア国際市況が下落傾向にある。アメリカと EU はテキサス州にある Gulf Coast アンモニア工場の完成により、月 10 万トンの新規生産能力が供給可能となり、余った玉がで、最新のフロリダ向けの 4 月積み契約価格が 3 月より 25 ドル下落して、CFR 435 ドル／トンで決定された。中東と東南アジアでは、インドなど主要輸入国が季節的な需要低迷期に入り、アンモニアの需要が減少した。世界最大のアンモニア需要家モロッコの OCP 社は毎月平均 15 万トンアンモニアを輸入するが、2022 年のロシアによるウクライナ侵攻でロシアからの輸入が途絶え、中東からの輸入に切り替え

たが、紅海ルートの危険性を考慮して、大西洋彼岸の Gulf Coast アンモニア工場からの輸入に変更する可能性がある。

\* 最大の尿素輸入国インドの尿素国際入札の有無が尿素の市況に大きな影響を及ぼすことが明白となった。下図は 2024 年 9 月第 3 週～2025 年 3 月第 3 週の黒海と中国産小粒尿素、インドネシアとエジプト産大粒尿素の FOB 価格の変動を示す。

2024 年 9 月 19 日インド RCF 社が 10 月 3 日締切りの尿素国際入札を発表し、その後の FOB 価格が 20～40 ドルも上がった。2024 年 12 月 9 日インド NFL 社が 12 月 19 日締切りの尿素国際入札を発表してから下落していた FOB 価格がすぐ上昇に転じた。1 ヶ月後の 2025 年 1 月 11 日にインド RCF 社が 1 月 23 日締切りの尿素国際入札を発表し、相場の高騰に拍車をかけた。2024 年 9 月上旬に比べて、約 100 ドルも上がった。対照として、中国尿素は政府の厳しい規制を受け、実質上の輸出が不可能となり、象徴的に FOB 価格を提示するだけである。



\* 3 月第 4 週 (24～30 日) の尿素国際相場は乱高下が見られた。インド IPL 社の尿素国際入札が発表された日 (3 月 26 日) のインドネシア産大粒尿素の FOB 価格が 371～380 ドル／トンで、4 週間前の 2 月下旬より 51 ドル、エジプト産大粒尿素の FOB 価格が 360 ドル／トン台で 2 月下旬より 90 ドルも下がった。ロシア産小粒尿素の FOB 黒海も 340～350 ドル／トンで 2 月下旬より 45 ドル安くなった。

しかし、3月26日夜、インドIPL社の尿素国際入札が発表され、主要産出国の尿素価格が反転した。3月27日にインドネシアKaltim社はFOB377.5ドル／トンで4.5万トン大粒尿素、Pupuk社がFOB389ドル／トンで1.2万トン小粒尿素を販売した。エジプト産大粒尿素のFOB価格も360ドル後半に安定して、Mopco社が3月27日にFOB370ドル／トンで6000トンを販売した。CFRブラジル向けの大粒尿素のCFR価格が週初めに355ドル／トンであったが、週末には360～365ドル／トンに上がり、アメリカのFOB Nola価格も370ドル／トンに上がった。

\* 中国は世界最大のりん鉱石採掘国で、2022年までにりん鉱石を輸出していたが、電気自動車に使うリチウム電池の需要が急増し、その原料となるりん酸鉄リチウムに高品質りん鉱石が使用されるようになり、2023年から高品質のりん鉱石輸入量が増加した。エジプトとヨルダンが主な輸入元である。2025年1～2月のりん鉱石輸入量が14万トン、そのうちヨルダンから9.2万トン、エジプトから2.6万トン、パキスタンから2.2万トンを輸入した。

## 大手各社の営業業績

\* 世界最大の加里企業カナダのNutrien社は2024年の業績を発表した。加里など肥料価格の下落で売上高が11.6%減の259.72億ドル、EBITDAが11.6%減の53.55億ドル、純利益が45.4%減の7億ドルである。各肥料品目の業績は加里肥料販売量が5.1%増の1388.6万トン、売上高が20.4%減の29.89億ドル、窒素肥料販売量が2.6%増の1069.4万トン、売上高が11.0%減の37.45億ドル、りん酸肥料を含むりん酸塩販売量が4.6%減の243.4万トン、売上高が16.9%減の16.57億ドル。

## 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

\* アメリカのKBR社はアフリカのアンゴラSoyo市にある肥料工場の建設プロジェクトを支援するため、アンゴラのAmufert社からプロジェクト管理コンサルティング(PMC)サービスの契約を獲得したと発表した。この契約は、KBRがすでに同プロジェクトで契約した技術ライセンス、独自のエンジニアリング設計、機器、触媒ソリューション項目に加えるものである。

アンゴラのSoyo肥料工場は2,300トン／日のアンモニアと4,000トン／日の尿素生産能力を計画しており、総投資額20億ドル、生産される尿素などはアンゴラだけではなく、近隣諸国にも供給し、アフリカの食糧安全保障能力の向上に役立つという。

\* アイルランドのOMEX社はアイスランド南部のCork港にアイルランド初かつ最大の専用液体肥料流通拠点を正式にオープンした。その拠点はアイルランド最大の液体窒素

肥料の貯蔵能力があり、主要な農業地域をすべてカバーできる戦略的な位置となり、全国の農家が高品質の液体肥料を安定的に利用できるようになる。

- \* インドの Gujarat Narmada Valley Fertilizers & Chemicals Ltd. (GNFC) 社はグジャラート州 Bharuch 市に第 3 の硝酸プラント (WNA - III) を建設する。プラントの生産能力は、硝酸 600 トン／日で、インド最大の硝酸施設の 1 つとして、硝酸製造から窒素酸化物を排除することで温室効果ガス (GHG) 排出量を削減することを狙っている。同社の WNA - I および WNA - II プラントの建設に実績のあるドイツの thyssenkrupp Uhde 社は WNA - III の総合施工契約 (ライセンス、基本エンジニアリング、詳細エンジニアリング、調達、建設、試運転、スタートアップ サービスなど) を獲得した。
- \* ドイツの Mabanaft GmbH 社がアメリカテキサス州 Texas City にある Gulf Coast Ammonia (GCA) プロジェクトの稼働が始まったと発表した。Gulf Coast Ammonia プロジェクトは年間アンモニア生産能力 130 万トンの世界最大級のアンモニア生産施設で、2020 年に建設が開始し、2025 年 3 月に完成した。3 月中旬に最初の 1.5 万トンアンモニアが船積みされ、ノルウェー Yara 社の Article Circle 肥料工場に輸出された。
- \* モロッコの OCP 社は新たに Meskala 市と Mzinda 村にそれぞれりん酸肥料生産拠点を設立すると発表した。この 2 ヶ所に重過りん酸石灰 (TPS と TPS+) の生産設備を設け、まず 2026 年に 450 万トン生産能力を稼働させ、2028 年に生産能力を 900 万トンに拡張させる計画である。りん酸肥料に対する世界的需要が高まり、りん安 (DAP, MAP) ではなく、生産設備と生産工程が簡単で、建設期間が短く、投資額が抑えられる重過りん酸石灰を選んだ。
- \* 中央アジアのキルギスは南部の Osh 州 Osh 市に国内初の化学肥料工場を建設すると発表した。国営キルギス化学肥料工場は中国「一带一路」の重要な援助項目で、設計生産能力は年間 20 万トン化成肥料で、第 1 期 10 万トン腐植酸系化学肥料の生産設備がすでに据え付け始まった。

## その他

- \* イタリアの NEXTCHEM (MAIRE) 社がサウジアラビアの SATORP 社から Jubail 製油所の硫黄回収施設に関するエンジニアリングおよび技術サービスを提供する 3 年契約を獲得したことを発表した。具体的な内容は、硫黄回収コンプレックスを構成する 3 つのユニット (硫黄回収ユニット (SRU)、アミン再生ユニット、酸性水ストリッパー) の

パフォーマンスを強化し、運用上のトラブルシューティングをサポートし、エネルギー効率を改善し、二酸化炭素排出量を削減するためのプロセスおよびエンジニアリングアドバイザリ サービスを提供することである。

SATORP 社はサウジアラムコ (Saudi Aramco) と Total Energies の合弁会社で、Jubail などに石油の製油所を持っている。回収した硫黄は中国、モロッコ、インドなどに輸出して、硫酸を作り、りん安などのりん酸系肥料の生産に使われる。

- \* アメリカの Michigan Potash & Salt (ミシガン・ポタッシュ) 社は塩化加里生産の副産物として、新たな塩事業を開始し年間 100 万トン食塩を生産することを発表した。製品は食品用のほか、融雪剤など工業用途にも使用される。2025 年 1 月、アメリカ政府エネルギー省の融資プログラム局 (LPO) はミシガン・ポタッシュ社に対し、高度の技術でエネルギー効率の高い塩化加里および食塩を生産するために、最大 12 億 6,000 万ドルの条件付き融資を約束した。
- \* オランダの OCI Global 社は Raiffeisen Waren-Zentrale Rhein-Main AG 社 (RWZ) と戦略的提携を結び、RWZ と BASF の子会社 KlimaPartner Landwirtschaft に低炭素肥料を供給することになる。OCI Global 社は、低炭素の硝酸カルシウムアンモニウム (CAN)、窒素硫黄肥料 (CAN+S) などに使うアンモニアが天然ガスではなく、バイオガスを使用して合成されるため、生産時の CO<sub>2</sub> 排出量が最大 60% 削減される。2024 年に約 8,200 ヘクタールの冬小麦耕地が KlimaPartner Landwirtschaft プログラムに参加して、作物収量 1 トンあたりの CO<sub>2</sub> 換算排出量を 30% 削減することを目標としている。
- \* スイスの特殊化学品会社 Clariant 社はアンモニアから硝酸を作る際に使う特殊な触媒 (商品名 : Clariant's EnviCat N<sub>2</sub>O-S) が亜酸化窒素の削減に非常に効果があると発表した。2024 年 10 月からインドの GNFC 社の硝酸プラントに当該触媒を設置して、4 か月の監視データでは 44,000TPN CO<sub>2</sub> e に相当する N<sub>2</sub>O の排出量を削減したと実証されているという。